



© 吉川夏彦

特定第二種
国内希少
野生動植物種

トウキョウサンショウウオ

学名：*Hynobius tokyoensis*

- 日本固有の両生類です。
- 体の大きさは8～13cmです。
- 繁殖期は1～4月で、メスは1回の産卵で1対の卵のう（卵の入った袋）を生みます。卵のうはクロワッサンのような形をしていて、1対の卵のうには平均50～120個の卵が入っています。孵化した幼生（子ども）は水中で生活しますが、夏から秋までに変態して陸に上がり、その後、3～5年で大人になります。
- 環境省レッドリスト2020では、絶滅危惧Ⅱ類（VU）とされています。



トウキョウサンショウウオの卵のう
© 自然環境研究センター

※ 特定第二種国内希少野生動植物種は、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」に基づき里地里山の絶滅危惧種を主な対象にして指定され、販売・頒布に係る捕獲、譲渡し等の行為のみが規制されます。

皆様へのお願い

特定第二種国内希少野生動植物種は絶滅危惧種です。

- 販売・頒布以外の場合でもむやみな捕獲はやめましょう。
- 飼育している個体は最後まで飼育しましょう。
- 捕獲・飼育している個体をみだりに別の場所へ放つことはやめましょう。
- ぜひ自然観察会や保全活動に参加してみましょう。

特定第二種国内希少野生動植物種

トウキョウサンショウウオ

どんなところにいるの？

- 丘陵地の森林に生息し、繁殖期にだけ山ぎわの田んぼや湿地、池、水路などの小規模な止水域（流れのない水辺）にやってきます。繁殖期以外はほとんど見ることはできません。
- 福島県、茨城県、栃木県、千葉県、埼玉県、東京都及び神奈川県計7都県に分布します。

トウキョウサンショウウオの分布図

■ 分布区域

どの地域でも減少傾向にあり、かつては生息していたのに今では見られなくなってしまった繁殖地も多くあります。



どうして減ってしまったの？

- 里地里山の荒廃、耕作放棄地の増加に伴う産卵場所の消失、乾燥化
 - 外来種（アライグマ、アメリカザリガニ等）による捕食
 - 住宅地や道路、ゴルフ場などの開発の影響
 - 販売目的の卵のうや成体の採集
- などによって減ってしまったと考えられています。

守るためにどんな取り組みがされているの？

地方自治体、地域の団体や学校、ボランティア、民間企業などにより、以下のような取り組みがされています。

- 卵のう数のカウントによる生息状況調査
- 繁殖場所の環境整備（里山環境の保全など）
- 外来種（アライグマ、アメリカザリガニ）の駆除作業
- 観察会の実施
- 生息域外での系統保存（里親制度など）

また、一部の市町村では条例によりトウキョウサンショウウオの捕獲などが規制されています。

- 市町村指定天然記念物：栃木県宇都宮市（戸祭山緑地のトウキョウサンショウウオ個体群及びその生息地）、栃木県佐野市（奈良淵町のトウキョウサンショウウオ）、東京都日の出町（いずれも2020年時点）



生息地の景観 © 川上洋一

保全の事例

里地里山の維持管理、活用と希少動植物の保全—横沢入里山保全地域における取組—

横沢入は東京都あきる野市に位置する谷戸環境で、都の里山保全地域に指定されています。

地元の自治体、住民、ボランティア活動団体などからなる横沢入里山保全地域運営協議会によって活動が行われており、環境省の「生物多様性保全上重要な里地里山」にも選定されています。

里地里山の環境を維持するための草刈り、湿地の整備、やぶや倒木の整理、生物調査、外来植物駆除や間伐材を利用した炭焼などの活動に加え、アライグマの駆除も行われ、最近ではトウキョウサンショウウオの卵のう数が増加傾向にあります。



トウキョウサンショウウオの生息状況モニタリング © 川上洋一